

## 第 24 回議会報告会 報告書

地 域 名	広谷地域		
年 月 日	令和 5 年 4 月 25 日 (火)	会 場 名	広谷地域福祉コミュニティセンター
開始時間	19 時 30 分	終了時間	21 時 00 分
参 加 数	男性 21 人	女性 1 人	合計 22 人
班 長	浄慶 耕造	司 会 者	浄慶 耕造
報 告 者	浄慶 耕造、深澤 巧、 瀬原 敬樹、田路 之雄	書 記	瀬原 敬樹
班 員 名	浄慶 耕造、深澤 巧、瀬原 敬樹、田路 之雄		
	市 民	対 応	
報告に対する質疑	<p>① 自治協議会の「地域づくり計画」を作るにあたって、想定以上のスピードで人口減少・少子高齢化が進んでいる実態を知った。関係者が集まって議論して変えていかなければ間に合わないことになる。議会も引き続き取り組んでほしい。</p> <p>② 高齢者タクシー補助が導入されて感謝しているが、利用目的に制限がある。高齢者のニーズは多様で、それが健康づくり、生きがいになっている。用途を広げることを求めたい。</p> <p>③ 「バーチャルよりバァさんジィさん、」という声がよく聞かれる。パソコンを使えない高齢者が多い。もっと細やかに高齢者の暮らしを見てほしい。</p> <p>④ 市は最大の課題は人口減少問題だというが、どう取り組んでいるのか。例えば結婚応援事業は成果が上がっているのか。</p>	<p>① 同感だ。人口減少対策に具体的な効果を上げるために、目標設定をするぐらいの具体的な議論が必要と思っている。議会としてもしっかり取り組んでいく。</p> <p>② 関宮地域からは医療機関が遠く、1回の利用額が大きい。地域差をつけてほしいという声もある。デジタルタクシー券になると利用者のタクシー利用のデータが集まる。市民の声を受け止めたい。</p> <p>③ 市はデジタルに少し前のめりかもしれない。しかしスマホをお持ちの高齢者も多い。スマホ教室などを通じて利用幅を広げることで、高齢者に役立つデジタル社会にしたい。</p> <p>④ シルバー人材センターや社会福祉協議会に委託してマッチング事業や縁結び事業を行っている。成婚数は多くはないが結果も出ている。一方若い人たちにプレッシャーをかけないよう、生活基盤の充実を通じて結婚数を増やすべきと思う。</p>	

市 民	対 応
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">意見交換会での質疑</p> <p>① 事業所が減っていくと地元に残ることができない。一般質問の「自治体は事業承継に乗り出すべきだ」という考えに賛成だ。だが市の答弁は弱い。もっと追及できなかったのか。</p> <p>② 但馬農高は地元就職率が高い。市はしっかりと応援すべきだ。</p> <p>③ 移動販売事業を行っている。同業者で協議会を作って市内の全集落を回っている。しかし経営的に厳しい環境の中で、撤退する事業者も出てきた。移動販売事業は命を救う事業だと思っている。この事業が持続できるよう、議会も市と交渉してもらいたい。</p> <p>④ 議会を拝見していると、タブレットが導入されている。予算書など膨大な紙の資料が机にあり確認ができたほうが、画面の中なので見落としがないか心配してしまう。議会のIT化の利点は何なのか。</p>	<p>① 「議会だより」には要旨しかないので、ぜひパソコンで一般質問の録画を見てほしい。これからも一緒に考えさせてもらいたい。</p> <p>② 市は但馬農高と連携して「農学講座」を開催するなど、農高とのかかわりを強めている。議会も高校生との意見交換会を実施している。だがもっと高校生と地域のつながりを深めるための努力をしなければならないと思っている。</p> <p>③ 集落の人口が減る中で、1軒1軒声をかけて販売しておられることを承知している。食べることは医療の前に命を支えることだ。この命の綱のリアリティを市に伝えて、市が主体的に向き合うよう、改めて取り組んでいきたい。</p> <p>④ 紙でも画面でも油断すれば見落としがある。タブレットは過去の配付資料との照合とか、ネット情報の取得など、利便性は大いに向上する。まだ過渡期で手慣れていないが、IT化は必須だと思っている。</p>
<p>備考 なし</p>	

議会報告会を実施したので、上記のとおり報告いたします。

令和5年5月12日

報告者 3班 班長 浄慶 耕造